

高等学校社会系教科における 導入学習に関する授業開発の研究 (Ⅲ)

— 「現代社会」導入単元の場合 —

下前 弘司 小原 友行 池野 範男 棚橋 健治
鶴木 毅 大江 和彦 土肥大次郎 蓮尾 陽平
森 才三 山名 敏弘 和田 文雄

1. はじめに

まず、昨年度に整理されている、「導入」の3つのレベルについて確認しておく¹⁾。これは以下のとおりである。

- ①「一時間の授業」の最初の段階
- ②「単元」の最初の段階
- ③「教科・科目」の最初の段階

本研究は昨年に引き続き、このような「導入」段階の授業のうち、②および③の授業プランを高等学校社会系教科において開発し、「導入学習」のさまざまな授業のあり方を提起しようとするものである。

一昨年度(第1年次)は、地理歴史科『地理B』において、②の「導入学習」の授業を開発した²⁾。続いて昨年度(第2年次)は、地理歴史科『世界史A』において、③の「導入学習」すなわち「授業開き」の授業を開発した。小単元「高等学校『世界史』への扉」における「世界史とは何か?」および「歴史とは何か?」の授業がそれである³⁾。そこでは、中学校では体系的に世界史の内容を学習していないことをふまえて、「世界史とはどのようなものか」そして「それをどのように学習していくのか」を確認させ、さらに「歴史とはなにか」ということを考えさせるメタ・ヒストリー学習を取り入れ、歴史の解釈性・再構成性に気づき、「歴史への真摯さ」を身につけてその後展開される学習に援用しようとするものである。

これらに続いて、本年度(第3年次)は、公民科『現代社会』において、③の「導入学習」すなわち「授業開き」の授業開発を試みたい。

2. 現代社会「導入単元」の授業開発の視点

筆者の勤務校では、現代社会を高校1年で実施している。よって、本稿では中学校公民的分野と現代社会の橋渡しを行うための導入単元およびその授業開発を試みる。

まず、中学校公民的分野と高等学校公民科現代社会の違いをふまえ、現代社会という科目の特性を明らかにしておこう⁴⁾。

中学校公民的分野では、現代日本の歩みと私たちの生活という単元において「高度経済成長から今日までの我が国や国際社会の変容について、国民生活と関連させて理解させる」ことが求められ、私たちの生活と経済という単元においては「身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の働きに着目させて市場経済の基本的な考え方について理解させる」ことが求められている。また、内容の取扱いとしては、「社会的事象は相互に関連し合っていることに留意」することが要請され、『現代日本の発展の過程』については、科学技術の発展や経済成長を通しての国民生活の変化、特に衣食住や生活意識の変化に着目させて理解させるとともに、職業や余暇生活の多様化、情報化の進展などが社会生活に与えた影響について気付かせること」が要請されている。

一方現代社会では、内容の取扱いとして「社会的事象は相互に関連し合っていることに留意し、社会的事象に対する関心をもって多様な角度から考えさせるとともに、できるだけ総合的にとらえることができるようにすること。また、生徒が自己の生き方にかかわって主体的に考えるよう学習指導の展開を工夫すること」が求められており、この点で中学校公民的分野の

ものと非常によく似ていることがわかる。

さらに「的確な資料に基づいて、社会的事象に対する客観的かつ公正なものの見方や考え方を育成するとともに、学び方の習得を図ること。その際、統計などの資料の見方やその意味、情報の検索や処理の仕方、簡単な社会調査の方法などについて指導するよう留意すること。また、学習の過程で考えたことや学習の成果を適切に表現させるよう留意すること」が求められており、この点が中学校公民的分野との違いだと考えられる。つまり、現代社会という科目においては、具体的な資料を用い、社会科学の方法論を身につけながら社会的事象を公正にかつ客観的に学んでいくことが求められているのだと考えられる。

次に、現代を学ぶとはどういうことなのかについて考えたい。このことは、以下のようにまとめられるのではないだろうか。

- ①現代がどのようにできあがってきたのか、歴史的・通時的に学ぶ。(変化の視点)
- ②現代の社会においては何が存在し、どのように成り立っているのかを学ぶ。(分析の視点)
- ③現代に存在する制度やしくみがなぜその地域で受容されているのかを、共時的に学ぶ。(比較・関連性の視点)
- ④現状から考えて、今後どのように変わっていくのかを考える。(予測の視点)
- ⑤現代の社会のありかたは望ましいものなのか、今後どのように変化させるべきなのかを考える。(価値判断の視点)

近年、現代社会への関心や学習意欲を引き出すなどの目的で、ディベートなどを通じて、⑤を中心とした授業がよく行われているが、このような価値判断を含む授業を行う前には、公正にかつ客観的に学ぶということを満たすよう、社会科学の方法論を身につけさせ、事実判断の部分をしっかりとして理解させておかなければならない。よって、導入単位において、この①～④をまず主眼とし、具体的な事実を用いて考えさせていき、その上で⑤につなげていくというような型を提示することが必要なのではない。

導入単位「高等学校『現代社会』への扉～コンビニエンスストアから始める社会科学」授業試案

1. 小単元 高等学校『現代社会』への扉～コンビニエンスストアから始める社会科学

2. 小単元の目標

現代社会は複合要因で成り立っていることを具体的に考えながら、現代社会学習への意欲を高めるとともに、自らの生活・消費行動から世界規模の問題まで、様々な視点・レベルで考えられるようになる。

3. 現代社会「導入単位」の内容構成の視点

現代社会の導入単位として、すでに地球環境問題、資源・エネルギー問題、科学技術の発達と生命の問題、日常生活と宗教や芸術とのかかわり、豊かな生活と福祉社会などが設定されているが⁵⁾、このテーマのほとんどに共通するのは、「現代の消費生活のあり方」ではなかろうか。主体的に課題を追求することと、相互関連という視点を重視する場合、これらの事項を「現代の消費生活のあり方」というひとつのテーマから出発させて考えさせることで、より相互関連を意識させた導入単位を開発することができるのではない。

このとき、コンビニエンスストアという題材が思い浮かぶ。いわゆる「現代社会の諸問題」を考える際に重要な視点は、現代の消費生活の在り方を考えるということにあるのではない。自らの消費生活をとらえなおし、そこから地球環境や資源・エネルギーなど世界規模の問題につなげていくことで、自分とのつながりがより明確になるだろう。また、コンビニエンスストアを扱うことで、情報化の進展といった科学技術の発達という視点も加えることができるし、「豊かな生活」とは何かという問題、さらには現代における幸福とは何かという倫理的な問題を考えていくことにもつながるだろう。

4. 現代社会「導入単位」の授業試案

現代社会の「導入単位」として開発した小単元「高等学校『現代社会』への扉～コンビニエンスストアから始める社会科学」は、「現在、コンビニエンスストアはようになっており、なぜここまで受容されているのか。」および「コンビニエンスの追及は幸福をもたらすのか～消費生活のありかたを考える～」から構成されている。

前者は、本稿第2節で提示した現代を学ぶ視点①および②を主眼として構成し、後者は③～⑤を主眼として構成した。

以下に前者「現在、コンビニエンスストアはようになっており、なぜここまで受容されているのか。」の授業試案を教授書の形式で提示する。

3. 単元計画（全4時）

- 1・2時間目：現在、コンビニエンスストアはどうなっており、なぜここまで受容されているのか。
 …学習内容（1）に対応
- 3・4時間目：コンビニエンスの追及は幸福をもたらすのか～消費生活のありかたを考える～
 …学習内容（2）に対応

4. 小単元の学習内容

- (1) コンビニエンスストアを通じて、社会は様々な複合要因によって成り立っており、我々の行動と相互に影響を及ぼし合っていることを理解する。
- ①消費者の心理をたくみに突いた店舗作り、商品提供を行っており、「便利だ」と思わせる工夫をしている。
 - ②社会状況や生活スタイルの変化とコンビニエンスストアは相互に深く関連している。
 - ③経営の効率化を進めるにあたって、流通網や情報網を整備してきたことが、コンビニの存立基盤となっている。
 - ④コンビニが確立してきた流通網や情報網によって、行政や地域社会とのかかわりかたにも変化が現れている。
 - ⑤現代の社会問題とコンビニは深く関連しており、問題を発生させる原因になっている部分がある。
 - ⑥コンビニのあり方は、我々が求める消費生活のあり方そのものだとも考えられる。
- (2) コンビニエンスストアを通じて、自らの生活を捉え直し、自分にとって、そして社会全体にとって幸福とは何かを考えながら、自らの生き方と社会のあり方を主体的に考える。
 (具体的な内容は次稿にゆずることとする。)

5. 小単元の評価規準

関心・意欲・態度	現代社会の縮図ともいえるコンビニを通じて、現代社会の成り立ちや仕組みに関心を持ち、社会問題の解決にむけて主体的かつ具体的に思考する態度を身につけたか。
思考・判断	現代社会は複合要因によって成り立っていることをふまえて、多角的・多面的・具体的に考えることができるか。導き出した考えを、自分の生き方や社会のあり方について当てはめ、さらに考究していくことができるか。
技能・表現	資料や具体的な事象から、その資料や具体的事象がもつ意味を見だし、顕在化できるか。
知識・理解	「4. 小単元の学習内容」を理解したか。

6. 授業展開過程（資料の番号は、授業配付資料に対応している。）

	教師の発問	教授・学習過程	資料	生徒から引き出したい知識・学習内容・思考過程など
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書第1編はどんな内容になっているか。 ・第1編の内容のほとんどは、我々の生活に深く関連しているが、一言でまとめると、どういう点で深く関連しているか。 ・最も頻繁に利用する店は何か。 ・なぜコンビニを頻繁に利用する人が多いのか。 ・コンビニエンスストアは現代社会にとって不可欠なもか。自分の生活に欠かせないものか。 ・品揃えが豊かで、近くにあることだけが、「便利さ」を感じる要素なのだろうか。 ・いつも「便利だから」と意識してコンビニに行くのか。他に理由はないだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> T:発問する P:答える T:発問する P:考え、答える T:説明する T:発問する P:答える T:発問する P:答える T:発問する P:答える T:発問する P:考える T:発問する P:考える 	1.	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題や資源・エネルギー問題、生命倫理の問題や宗教・芸術に関するもの、そして高齢社会と福祉の問題である。 ・慣れ親しんだ風習など身近なものから、世界規模の問題までであるが、自分の生き方と関連しているのはいいか。 ・消費生活のあり方に関わる問題である。 ・コンビニエンスストアである。 ・便利だから。欲しい物が手にはいるから。 ・24時間営業だから。 ・絶対に必要かどうかはわからないが、あったほうがいいものだ。いや、欠かせない… ・他に何か工夫があるのだろうか… ・限定商品があるから。 ・何となくコンビニに行くこともあるが…
展開1	<p><ワークシートで作業を行う></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入り口の側に雑誌・書籍のコーナーがあるが、それはなぜだろうか。書店ではないのになぜ外から一番見るところに置くのか。 ・レジが置かれたカウンターはなぜ奥ではなく入り口に近いところにあるのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> T:発問する P:考え、答える T:発問する P:答える 	1.	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち読みがしたくなるように仕向け入店させ、ついでに何か買わせようとしているのではないか。 ・防犯のためではないか。 ・雑誌コーナーに人がいるだけで防犯につながるのではないか。

展 開 1	<ul style="list-style-type: none"> ・食料品は通路を挟んで両サイドに配置されているが、それはなぜだろうか。 ・飲料コーナーに向かって後ろ側には何があるか。そして、それはなぜそこにあるのか。 ・お弁当とおにぎりのコーナーの側に何があるだろうか。 	<p>T:発問する P:考え、答える</p> <p>T:発問する P:考え、答える</p> <p>T:発問する P:考え、答える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・欲しいおにぎりや弁当がなかったとき、後ろを向けばすぐにパンがあるため、何も買わずに店を出ることが少なくなるから。 ・スナック菓子やおつまみのコーナー。 ・飲み物を買おうと、ついスナック菓子やおつまみが欲しくなる心理が働くから。 ・サンドウィッチやサラダがある。 ・冬なら暖かいお茶など、夏なら冷たいお茶などが置かれている。 ・これも同様に、おにぎりを目的に来店した人が、側にあるお茶につい手が伸びてしまうというような心理を突いているからだ。 ・「シーズンエンド」とある。 ・それは店の外からも目に入りやすい入り口すぐの陳列棚のことを言う。主に季節の商品を陳列し、それをアピールすることで入店させてしまうねらいがある。 ・消費者の心理をたくみに突いた店舗作りをしていることがわかる。 ・「便利だ」と感じさせる工夫をしている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料コーナーが別に設けられているのに、なぜお弁当とおにぎりのコーナーのそばに飲料が置かれているのか。 ・入り口に最も近い陳列棚の端には何のコーナーがあるか。 ・シーズンエンド（プロモーションエンドともいう）とは何だろうか。 ・以上のことから何が読み取れるか。 	<p>T:発問する P:考え、答える</p> <p>T:発問する P:答える</p> <p>T:発問する T:説明する</p> <p>T:発問する P:答える</p>	
展 開 2	<ul style="list-style-type: none"> ・○×問題の答えは全て○なのだが、Aグループの①～③の内容から、何が読み取れるか。 ・④の事実は何を意味しているか。 ・⑤～⑨の事実は、何を意味しているか。 	<p>T:発問する P:答える</p> <p>T:発問する P:答える</p> <p>T:発問する P:答える T:説明する</p>	<p>2.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1970年代から深夜営業を始めている。 ・高度成長期に、生活スタイルが大きく変化したことが関係しているのだろう。 ・現在ではコンビニが生活に欠かせないものになってきているということだ。 ・単身者や夫婦共働き、高齢化など、家事労働が比較的困難な人々が増え、それにコンビニが対応しているのではないか。 ・生活スタイルが「個室化・孤立化」しても日常生活が可能になってきている。 ・社会状況や生活スタイルの変化とコンビニエンスストアは相互に深く関連している。 ・コンビニは一大産業に成長している。 ・様々な工夫が、小さな店舗でも構構な売り上げがあることにつながっている。 ・深夜に来店する人は少ないだろうが、客単価が高く売り上げに貢献するため、24時間営業を続けるのだろう。 ・短時間で効率的に購買意欲を高め、商品を買わせる工夫をこらしている。 ・行動経済学の研究成果を駆使している。 ・消費者心理をたくみに操作して、小さな店舗でも大きな売り上げを出せるように、経営の効率化が進んでいることがわかる。 ・四国にも多くの消費者が存在するはずなのに、なぜだろうか。 ・コンビニ側に何か事情があるのだろうか。 ・毎日何度も配送車が来て、商品を補給するから。 ・配送システムを工夫し、様々な種類の商品を一度に配送できるようにすべきである。 ・店舗と配送センターとの距離が短いため、必要に応じて効率的に配送を行うことが容易になる。 ・このことから、コスト削減を実現し、利益を高めることにつながっている。 ・商品の特性に合わせて配送を工夫することで、鮮度やおいしさを維持し、消費者の支持を高めることにつながっている。 ・流通網を確立すれば、それを応用できるビジネスに適用させ、サービスの充実化をすすめることができる。 ・「食の安全性」が話題になっているが、安心できる商品を提供し、コンビニ側と消費者側の両方にとって、便利でお得な流通システムが構築されている。 ・流通網や交通網の整備とコンビニは密接に関わっていることがわかる。 ・各店舗ごとの客層や売れ筋商品を明確に把握することで、より利益を生み出しやすくすることができる。 ・新しい店舗をどこにつくるかについての重要な情報も得ることができるのでは。
	<ul style="list-style-type: none"> ・⑩も合わせて、Aグループの内容から、何が読み取れるか。 ・Bグループの①～⑤の事実から、何が読み取れるか。 ・⑥の事実と営業形態には関連性があるが、それはどんなことか。 ・⑦、⑧の事実と2の標準店平面図から、何が読み取れるか。 ・Bグループの内容から、何が読み取れるか。 ・Cグループの①について、なぜセブンイレブンが四国にはないのだろうか。 ・②について、なぜ店内在庫が少ないのだろうか。なぜ少なくともよいのだろうか。さらに③のような問題を解消するためにはどうすればよいか。 ・セブンイレブンが四国にはない理由は、特定地域に集中して店舗展開し、輸送網を確立する「ドミナント戦略」が採用されているからなのだが、そうすると、どのようなメリットがあるか。 ・④、⑤の事実は何を意味しているか。 ・⑥の事実は何を意味しているか。 ・Cグループの内容から、何が読み取れるか。 ・Dグループの①について、なぜこのような情報を記録しておかなければならないのか。 	<p>T:発問する P:答える</p> <p>T:発問する P:答える</p> <p>T:発問する P:答える T:説明する</p> <p>T:発問する P:答える</p> <p>T:発問する P:答える</p> <p>T:発問する P:答える</p> <p>T:発問する P:考え、答える</p> <p>T:発問する P:答える</p> <p>T:発問する P:答える T:説明する</p> <p>T:発問する P:考え、答える</p>	

展 開 2	<ul style="list-style-type: none"> ②について、なぜこんなにも早くコンピュータを導入する必要があったのだろうか。 	T:発問する P:答える	<ul style="list-style-type: none"> 大量にある店舗の商品をいつ、どれだけ配送するかを考えるには、膨大なデータが必要で、それを処理するためにコンピュータは欠かせないから。 支払い時にバーコードを読み取り、客の情報を入力することで、効率的に情報収集ができるから。 夏でも、前日より気温が低くなると、暖かいものが欲しくなったりする（逆も然り）。 「夏」などの枠組みではなく、体感温度が行動に大きく影響している。 消費者の情報だけではなく、気象や気候に至るまで、生活に関わる様々な情報を集めて分析することで、消費者心理をうまく刺激していることがわかる。 POS（販売時点情報管理）システムを確立して情報網を構築している。 オリジナリティを前面に出すことで、消費者心理に訴えかけている。 コンビニはもはや、一般家庭の「冷蔵庫」であり「キッチン」でもある。 「こだわり」が大きな支持を集めるのだ。 コンビニは金融にも大きな変化をもたらしていることがわかる。 店自体のお金の管理にも利用されている。 これでも「便利だから」なのではないか。 現時点でセキュリティが破られたりしていないからではないか。 皆が、「これはお金だ」と思いこんでいるだけなのではないか。 行政に関わる窓口を、コンビニが代行していることがわかる。 コンビニが流通網や情報網を確立しているからこそ、可能になったのだ。 高度成長が終わり、新たな産業振興を目的として政府が積極的に働きかけたのだ。 郵政民営化によって可能になったのだ。 コンビニは地域に密着しているから、さらに地域ネットワークの構築にまで関わるようになった。 コンビニは、行政の変化にも大きく関わっていることがわかる。 コンビニは、人間の心理について店内の防犯につとめているだけではなく、その存在が地域の防犯にもつながっている。 コンビニは食糧問題や環境問題に悪影響を及ぼしている面があり、一方で独自に対策を練っていることがわかる。
	<ul style="list-style-type: none"> ③の事実は何を意味しているか。 	T:発問する P:答える	
	<ul style="list-style-type: none"> ④～⑥の事実は何を意味しているか。天気や気候と自分の行動は、どのように関連しているのだろうか。 	T:発問する P:考え、答える T:説明する	
	<ul style="list-style-type: none"> Dグループの内容から、何が読み取れるか。 	T:発問する P:答える T:説明する	
	<ul style="list-style-type: none"> Eグループの内容から、何が読み取れるか。 	T:発問する P:答える	
	<ul style="list-style-type: none"> Fグループの内容から、主に何が読み取れるか。 	T:発問する P:答える	
	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な「モノ」ではない電子マネーが実際に利用されるのはなぜなのだろうか。そもそも、「お金」とは何なのだろうか。 	T:発問する P:考え、答える	
	<ul style="list-style-type: none"> Gグループの①～③から、何が読み取れるか。 	T:発問する P:答える T:説明する	
	<ul style="list-style-type: none"> ④の事実は何を意味しているか。 	T:発問する T:説明する	
	<ul style="list-style-type: none"> ⑤、⑥が可能となったのはなぜだろうか。 	T:発問する P:答える	
<ul style="list-style-type: none"> ⑦は何を意味しているか。 	T:発問する P:答える		
<ul style="list-style-type: none"> Gグループの内容から、何が読み取れるか。 	T:発問する P:答える		
<ul style="list-style-type: none"> Hグループの内容から、何が読み取れるか。 	T:発問する P:答える		
<ul style="list-style-type: none"> Iグループの内容から、何が読み取れるか。 	T:発問する P:答える		
終 結	<ul style="list-style-type: none"> コンビニがもたらす問題の原因は全てコンビニにあるのだろうか。 	T:発問する P:考える	<ul style="list-style-type: none"> 現在のコンビニのあり方を求めたのは、我々消費者ではないか。 現代の生活スタイルを決定づけるほど、大きな影響を与える存在である。 生活環境を変化させる程の影響をもつ。 我々が求める消費生活のあり方そのものだと考えられる。 環境問題などにも関連しているから、ほどほどがいいのかもしれないが…。 「何でも簡単に手に入る＝幸せ」と本当に言えるのだろうか…。
	<ul style="list-style-type: none"> コンビニエンスストアとは、一体どのような存在なのだろうか。 	T:発問する P:答える T:説明する	
<ul style="list-style-type: none"> 現状のままで問題はないのだろうか。自分の消費生活のあり方に問題はないだろうか。 	T:発問する P:考える		

注) 教科書は、伊藤光晴ほか『高校現代社会 新訂版』実教出版を使用している。

- ③平均すると、国民一人当たり、一年間におよそ6万円をコンビニで支払っていることになる。
- ④平均すると、国民一人当たり、年間で100回ほどコンビニを利用していることになる。
- ⑤コンビニ1店舗あたりの売り上げ高の平均は、一日で50万円以上になる。
- ⑥昼間よりも深夜のほうが客単価が高い。
- ⑦コンビニに滞在する時間は、8割の人が5分以内である。
- ⑧野球のベースや陸上のトラック、メリーゴーランドと同様に、左回りに移動できるように入り口や商品の配置を工夫することが多い。

Cグループ

- ①セブンイレブンは四国にはない。
- ②コンビニ店内にある在庫は、およそ600万円分くらいで、売り上げの10日分程度しかない。
- ③コンビニが登場した当初、配送車は1日あたり70台も来ていて、渋滞の原因になることがあった。
- ④コンビニの配送車は特殊な構造になっていて、内部は4つの温度帯（20℃、5℃、-20℃、常温）に分けられている。
- ⑤市場を介さず、野菜の収穫から加工工場まで一定の低温度帯で配送する「コールド・チェーン」という物流網が形成された。
- ⑥大手コンビニは、宅配便の窓口にもなっている。

Dグループ

- ①コンビニで商品を購入すると、いつ（When、秒単位で）、どの店で（Where）、誰が（Who、性別とおよその年齢）、何を（What）、いくつ（How many）、いくらで（How much）という4W2Hが記録される。
- ②商品発注や在庫管理などをコンピュータで管理することを始めたのはセブンイレブんで、パソコンが世の中に普及するより前の1982年のことである。
- ③コンビニの商品には必ずバーコードをつけなければならないから、チロルチョコは20円のを発売することとなった。
- ④商品管理用のコンピュータを見ると、20km四方の気象情報（天気、気温（前日差も）、降水量、風）が表示され、この情報は6時間ごとに更新される。
- ⑤セブンイレブンにおける商品発注は、天気予報を見ないとできないようにプログラムされている。
- ⑥コンビニでは、必ずといっていいほど、8月からおでんを売り始める。

Eグループ

- ①平均しておよそ2500種類の商品が置かれている。
- ②日用品や調味料に至るまで、独自の商品（プライベート・ブランド商品）を開発している。
- ③ローソンは、オリジナル切手を販売している。
- ④お弁当やサンドウィッチは、賞味期限とは別に販売期限というものが設定されており、賞味期限よりも2時間前に撤去する。
- ⑤おにぎりやお米を使った弁当を置いているコーナーは温度管理がなされ、20℃に設定されている。
- ⑥コンビニ全体で、おにぎりは、一年間におよそ25億個も売れる。
- ⑦三角形よりも丸形のほうが小さく見えるので、丸形のおにぎりは売れ行きが伸びにくかったため、丸形のおにぎりはご飯の量を20%増量していた。
- ⑧おにぎりは、空気の含有量まで計算されて整形されている。
- ⑨菌の繁殖を抑えるために、真空冷却したごはんを用いておにぎりをつくっていたが、セブンイレブンの米飯工場では増える菌がない状態をつくり管理していて、従来は危険だとされてきた高温のご飯を握ることが可能となった。
- ⑩セブンイレブンには「おでん部会」というものがあり、さらに「大根部会」や「練物部会」などに細かく分けられ、おでんを専門的に研究する会議が開かれる。
- ⑪コンビニには、おでん専門のマニュアルがあり、具の配置など細かく指導されている。
- ⑫ふつうの食パンなどは冷蔵に向かないので、サンドウィッチ専門のパンを製造している。

- ⑬有名ラーメン店の味を再現したカップ麺を生産するようになったきっかけは、コンビニである。
⑭節分の日に食べる「恵方巻き」が流行したきっかけは、広島県のセブンイレブンであった。

Fグループ

- ①セブンイレブンでは、ほぼ100%の店でATMが設置されている。
②コンビニでは、カードローンが可能である。
③店の売上金の多くは、ATMに入れてしまう。
④コンビニで、生命保険などの保険に加入できる。
⑤電子マネーが急速に普及し、現金を用いない取引がコンビニでも急速に拡大している。
⑥レジに並ぶ時間を短縮するために、電子マネー専用のレジが設けられていることがある。

Gグループ

- ①一部、税金の納入や保険料の納入ができる。
②一部地域では、市役所など一定の部署に電話で申し込むと、住民票の受け取りをコンビニでできるようになった。
③図書館の本を返却することができる店舗がある。
④政府が『コンビニエンス・ストア・マニュアル』を作成したことがある。
⑤郵便局にコンビニが併設されているところがある。
⑥郵便局長がコンビニの店長を兼任するものがあられ、郵便局のコンビニ化がおきたものがある。
⑦地域振興や災害支援を目的として、地方自治体をコンビニが提携するケースが増えてきており、県庁内にコンビニ社員が常駐するようなことが発生している。

Hグループ

- ①コンビニで雑誌や本の立ち読みをしてもほとんどとがめられないのは、それが防犯に役立っているとコンビニが考えているからである。
②コンビニ内の照明は、およそ1000ルクスと、他の小売店に比べて非常に明るい。
③レジは必ず入り口の近くにある。
④マニュアルには、「客の入店時には必ず声をかけるように」と指示されている。
⑤不審者などに会ったときは、コンビニに逃げ込むように指導する学校が増えてきている。
⑥2007年度に、児童がコンビニに逃げ込んだり運び込まれたりしたケースは6000件以上におよぶ。

Iグループ

- ①毎日1店舗あたりおよそ15キログラムもの食品廃棄物を生み出している。
②独自の農園をもち、自社製品に使用する材料を独自に生産することが進められている。
③食品廃棄物を加工して堆肥にし、それを利用して材料を生産することが進められている。
④長野県議会は、地球温暖化対策条例を可決・施行し、24時間営業の見直しなどについて協議することを義務づけた。
⑤ローソンでは、二酸化炭素排出権取引に関連した「カーボン・オフセット」商品を販売している。

5. おわりに

今後はさらに、新学習指導要領をふまえ、高等学校公民科現代社会の特質をより明らかにし、社会科学の方法論をいかにして生徒に習得させていくかを追究していきたい。その上で、「コンビニエンスの追及は幸福をもたらすのか～消費生活のありかたを考える～」という授業を開発していきたい。

引用（参考）文献

- 1) 池田清彦, 養老孟司『ほんとうの環境問題』新潮社, 2008年。
- 2) 池田清彦, 養老孟司『正義で地球は救えない』新潮社, 2008年。
- 3) 石川勝敏『コンビニでは、なぜ8月におでんを売り始めたのか』扶桑社新書, 2007年。
- 4) 木下安司『コンビニエンスストアの知識』日本経済新聞社, 2002年。
- 5) 月刊VERDAD編集部『コンビニ 不都合な真実』KKベストブックス, 2007年。
- 6) 財団法人店舗システム協会監修『科学する店舗』東洋経済新報社, 2005年。
- 7) 佐伯胖『「学び」の構造』東洋館出版社, 1975年。
- 8) 佐伯胖『「わかり方」の探求 思索と行動の原点』小学館, 2004年。
- 9) スチュアート・L・ハート『未来をつくる資本主義』EIJI PRESS, 2008年。
- 10) 全国社会科教育学会『社会認識教育学研究ハンドブック』明治図書, 2001年。
- 11) 全国社会科教育学会編『社会科教育のニュー・パースペクティブー変革と提案ー』明治図書, 2003年。
- 12) 全国社会科教育学会編『社会認識教育の構造改革ーニュー・パースペクティブーにもとづく授業開発ー』明治図書, 2006年。
- 13) 高野雅晴『新しいお金 電子マネー・ポイント・仮想通貨の大混戦が始まる』アスキー新書, 2007年。
- 14) 多田洋介『行動経済学入門』日本経済新聞社, 2003年。
- 15) 棚橋健治『社会科の授業診断～よい授業に潜む危うさ研究』明治図書, 2007年。
- 16) 中村靖彦『コンビニ ファミレス 回転寿司』文春新書, 1998年。

- 17) 西垣通, NTTデータシステム科学研究所編『電子貨幣論』NTT出版, 1999年。
- 18) 野村総合研究所『2010年の流通 水平統合の加速と垂直統合の時代』東洋経済新報社, 2006年。
- 19) マッテオ・モッテルリーニ『経済は感情で動く』紀伊國屋書店, 2008年。
- 20) 吉岡秀子『セブン-イレブンおでん部会 ヒット商品開発の裏側』朝日新書, 2007年。
- 21) 吉本佳生『スタバではグランデを買え! 価格と生活の経済学』ダイヤモンド社, 2007年。
- 22) 鷲巢力『公共空間としてのコンビニ 進化するシステム24時間365日』朝日新聞出版, 2008年。

[注]

- 1) 詳しくは、森才三・小原友行・池野範男・棚橋健治ほか「高等学校社会系教科における導入学習に関する授業開発研究 (II) —「世界史A」導入単元の場合—」広島大学学部・附属共同研究機構、『広島大学学部・附属学校共同研究紀要』第36号, 2008年, p.339を参照願う。
- 2) 和田文雄・小原友行・池野範男・棚橋健治ほか「高等学校社会系教科における導入学習に関する授業開発研究 (I) —地理B「日本の大地形」学習指導案—」広島大学学部・附属共同研究機構、『広島大学学部・附属学校共同研究紀要』第35号, 2007年, pp.443～447。
- 3) 森才三・小原友行・池野範男・棚橋健治ほか「高等学校社会系教科における導入学習に関する授業開発研究 (II) —「世界史A」導入単元の場合—」広島大学学部・附属共同研究機構、『広島大学学部・附属学校共同研究紀要』第36号, 2008年, pp.339～348。
- 4) 以下の括弧部は、文部科学省『中学校学習指導要領』『高等学校学習指導要領』の抜粋である。
- 5) 伊藤光晴ほか『高校現代社会 新訂版』実教出版等の諸教科書を参照した。

[付記]

本研究の3年次は下前弘司が担当し、本稿を執筆した。